

館長だより 第6号(2025年3月)

1月に発生した当館への電力引込み線の故障では、近隣の皆様をはじめ多くの方々にご迷惑をおかけし、まことに申し訳ございませんでした。冬休みの時期とも重なる臨時休館となり、12月に表彰式を行ったジュニア学芸員の研究作品の展示も短縮せざるをえず、ご来館を予定されていた皆様にもご迷惑をおかけしましたこと、深く反省しております。今後はいっそう注意して館や園内の管理に努めてまいります。

春を迎える準備をすすめています

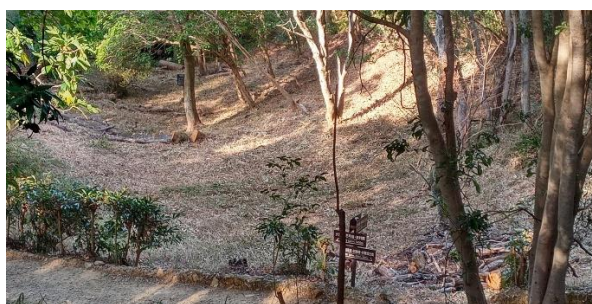
年始以来なかなか天候が安定せず、時として厳しい寒気により風土記の丘でも雪が降ることもありました。屋外に展示している埴輪たちの中にも、寒さに凍えていたり、反対に珍しい雪を楽しんでいたたりするものもいたようです。



植物が活動量を低下させる冬季は、園内の整備を集中的に実施する期間でもあります。もちろん一年を通して日常的に行っている作業ではありますが、管理用道路・園路や側溝の修理、枯損木の処理、広範囲の藪の伐開、落ち葉の始末など、多くの植物が休んでいる時期なればこそ行うべき作業がたくさんありますし、そうした作業が春から園内を訪れる方々に良好な環境を提供することにつながります。作業用の車輛が他の時期よりも頻繁に園内を通行しているのはそのためですので、ご理解をいただきたいと思います。



管理用道路の補修



将軍塚近辺の谷側の園路の伐開



(上) 竪穴住居の燻蒸（屋根の煙抜きから白煙が出ています。毎月定期的に実施しています）

(左) 石室公開古墳（A-2号墳）の周辺の伐開

職員の手で整備するには限界があり、どうしても道路や園路に沿った範囲に限られてしまいますが、最近、資料館から南に上がったA地区の公開古墳の集中地区を、業者さんの手で伐開してもらいました。尾根沿いに各種の墳形の古墳が集中して造られた、「千塚」という名称がつけられた往時の古墳群の姿を、多少は偲ぶことができるかと思います。

古墳石室の見学会を開催しました

紀伊風土記の丘では、特別史跡である岩橋千塚古墳群の保存活用計画をベースにした整備計画に基づき、順次古墳の整備や修復を進めています。

現在の作業の対象は大きく2つに分けられます。ひとつは既に石室を公開している古墳のうち、環境条件が悪化している石室を埋め戻し、墳丘を整形・修復する事業です。

石室や石棺などの埋葬施設を露出公開している古墳が多いのも岩橋千塚古墳群の特徴で、とくに天井石が喪われている石室は、石室の形や特徴的な石の積み方がよくわかり、訪れる皆さんにぜひ見ていただきたい対象でもあります。ただ、近年の気候や山林状態の変化、獣害などによって、石室内に多量の水や土砂が流入したり、見学上の支障が生じたりするなど、



保存・公開上の課題が指摘される事例も出てきました。こうした古墳のうち、対応を急ぐ必要のあるものを順番付けして、毎年2～3基の古墳の石室を埋め戻し、墳丘を整えて修復しています。過去に調査された石室ではありますが、学芸員は発掘調査に準じた手順で作業をし、過去の記録と現状を比

較して保存状況を確認します。作業によって石室が見やすくなる機会でもありますので、風土記の丘ボランティアの皆さんの協力を得て、2月1日（土）に見学会を行いました（対象はB71号墳とB191号墳。前頁の写真はB191号墳の説明会の場面）。こうした見学会は今後も継続していきたいと考えています。

もう一つの事業は岩橋千塚古墳群を代表する大型古墳の整備で、現在は丘陵東端にある天王塚古墳の整備を進めています。令和6年度には墳丘の北側の盛土と整形を行い、それによって大型前方後円墳の形がはっきりとわかるようになりましたので、3月2日（日）に石室と墳丘の見学会（石室見学は事前申し込み制）を開きました。午前には岩橋千塚古墳群を守る会と紀伊風土記の丘ボランティアの皆さんの見学会を、午後には一般の方の見学会をボランティアさんたちの協力で行いました。雨模様気味の天気で、残念ながら墳丘からの展望はいまひとつでしたが、晴れた日には紀ノ川沿いの景観が一望のもとに見渡せます。また、紀ノ川対岸のＪＲ阪和線の紀伊駅付近や京奈和道の紀ノ川サービスエリアからは、墳丘の形を望むこともできます。



現在は盛土がむき出しの状態なので、圧迫感をもたれる方がおられるかもしれませんが、天王塚古墳は葺石も埴輪ももたない古墳ですので、造営当初は案外この姿に近かったかもしれません。ただ、このままでは雨風で墳丘が崩れていってしまいますので、整備計画では墳丘を芝などで緑化し、安定させることにしています。そうなれば眼には少し優しくなるでしょう。令和7年度以降は、残る南側の墳丘の盛土整形を行って墳丘全体の形を復元するとともに、後円部にある石室の入口施設を整備し、保存と公開活用の両方の条件を整えていくこととなりますが、工事の進捗状況をみながら、今回のような公開の機会を適切に設けていきたいと思っています。

天王塚古墳は、その形を復元するところに重点を置きました。ただ、遺跡の整備は、学問の名の下に復元すればよいという単純なものではありません。地域社会で大切にされてきた（それ故に保護されてきた）姿に対する尊重の視線は必要ですし、地域の伝承との関係も考察の対象です。遺跡の周辺環境との調和も重要な視点です。岩橋千塚古墳群は岩橋丘陵の上に営まれていますから、その地形の保存はもとより、自然との調和も保存・活用上の重要な課題になります（植物の成長と古墳の保存とは両立し難い場合があり、悩ましいところです）。岩橋千塚古墳群は、それぞれの古墳の特徴を活かしながら、さまざまな整備のかたちをみていただく古墳群として整備していくことになるでしょう。



前方部端に造った仮設の斜路から頂部にあがって、墳丘を見学してもらいました。天王塚古墳の大きさがわかるでしょうか

園内の梅が咲き誇っています（3月7日追加）

今年は全国的に遅れているようですが、風土記の丘でも園内の梅の花が漸く開きました。復元竪穴住居の西側の石段付近の豊後梅、花木園の梅林が見頃になっています。園路傍には水仙なども風に揺れています。

資料館南側の広場の寒緋桜の蕾も色づいてきました。

